

(再評価)

ヒガシウラ  
東浦地区直轄特定漁港漁場整備事業

期中の評価(再評価)原案準備書説明資料

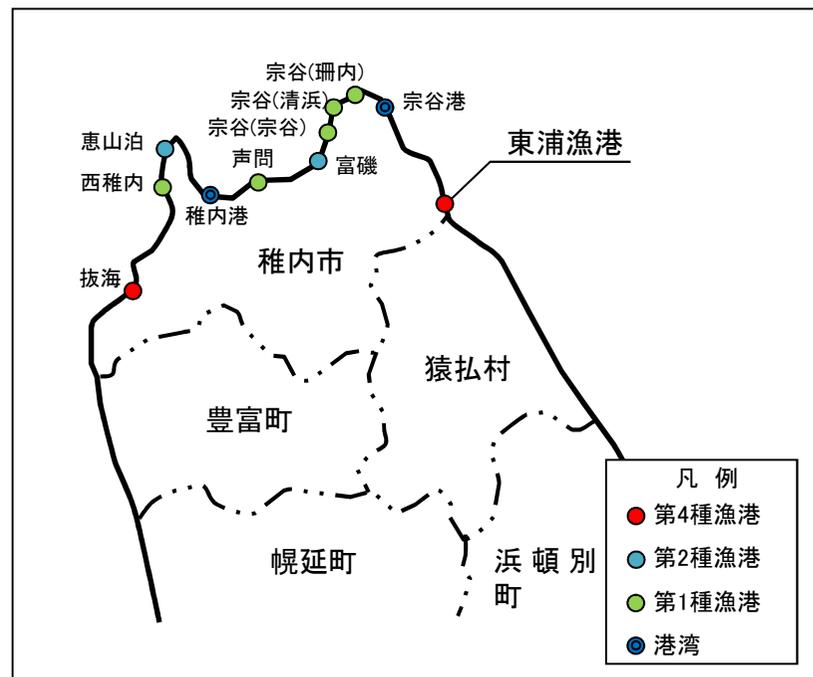
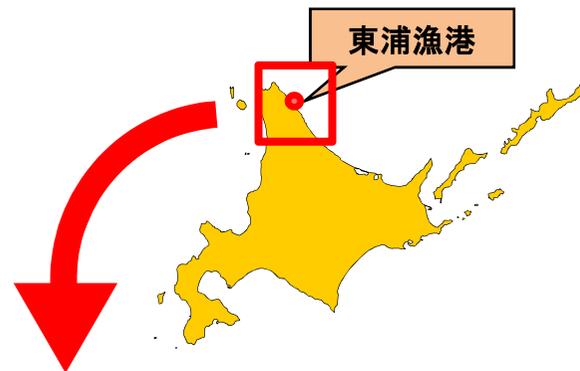
令和6年度  
北海道開発局

## 目 次

1. 地区の概要	.....	3
2. 事業概要	.....	5
(1)事業の目的	.....	5
(2)事業計画の概要	.....	8
(3)変更の内容	.....	9
3. 本事業により期待される効果	.....	13
(1)定量的な効果	.....	13
(2)定性的な効果	.....	19
(3)費用対効果の結果	.....	20
4. 事業の進捗状況	.....	23
(1)令和6年度までの整備状況	.....	23
(2)事業進捗の見込み	.....	23
5. 地方公共団体等の意見	.....	24
6. 対策方針(案)	.....	25

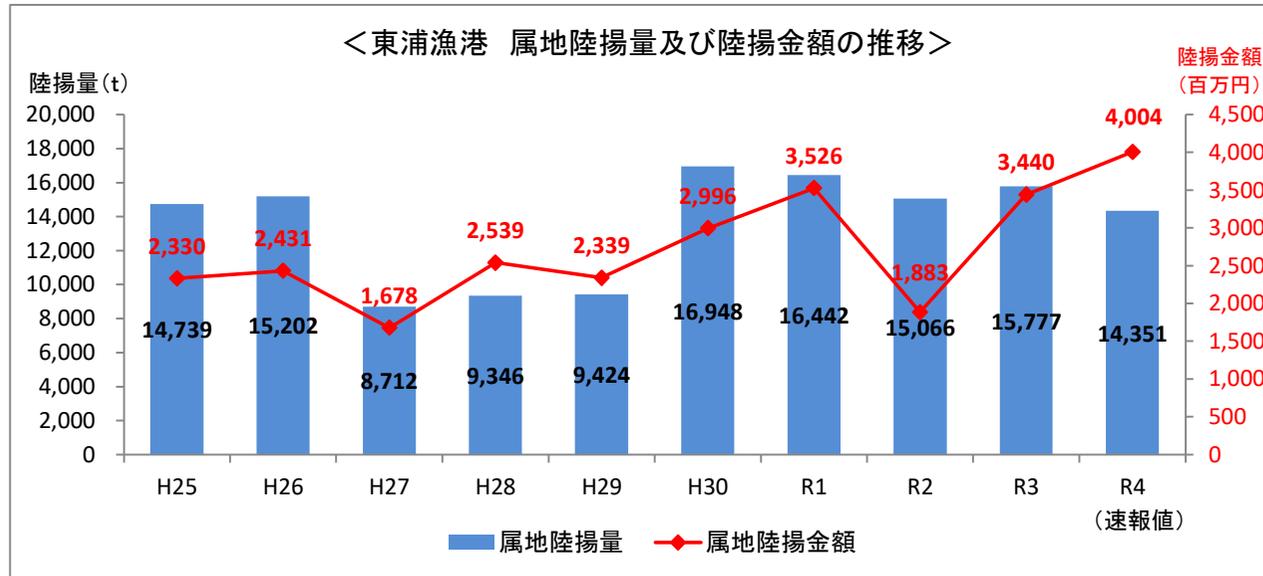
# 1.地区の概要

東浦漁港は、北海道北部の東側海岸に位置する第4種漁港(昭和38年指定)です。  
本漁港はオホーツク海北部海域のホタテガイ桁曳き網漁業等の生産・流通拠点や宗谷海峡で操業、航行する漁船の避難拠点として、重要な役割を担っています。

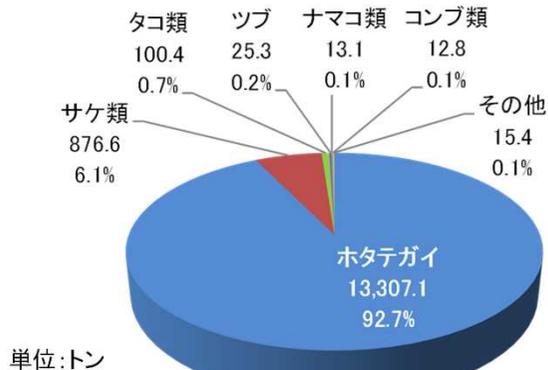


# 漁港の港勢

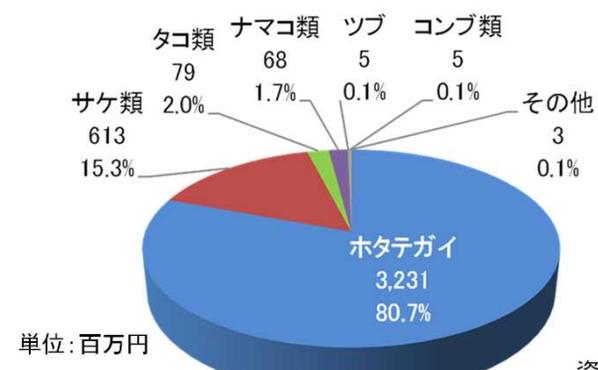
東浦漁港では、ホタテガイが陸揚量全体の9割以上を占めています。近年は陸揚量15,000トン前後、陸揚金額35億円前後で推移しています。



属地陸揚量の魚種別内訳 (R4年: 14,351トン)



属地陸揚金額の魚種別内訳 (R4年: 4,004百万円)



資料: 港勢調査

## 2.事業概要

### (1)事業の目的

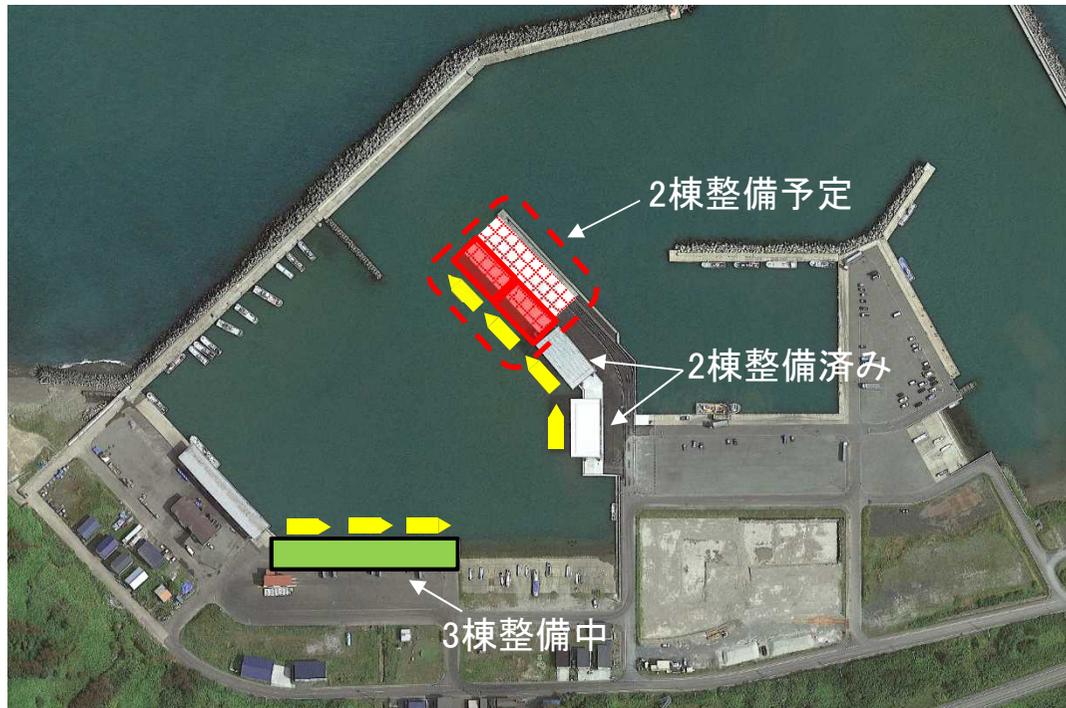
#### ①衛生管理体制の強化

##### 【課題】

・東浦漁港では、ホタテガイの国内出荷に加えて、海外への輸出を行っていますが、野天での陸揚げを余儀なくされており、異物混入や日射による鮮度低下が課題となっています。

##### 【対応】

・ホタテガイに対応した屋根付き岸壁の整備により、衛生管理対策の強化を図ります。



野天でのホタテガイ陸揚げ状況

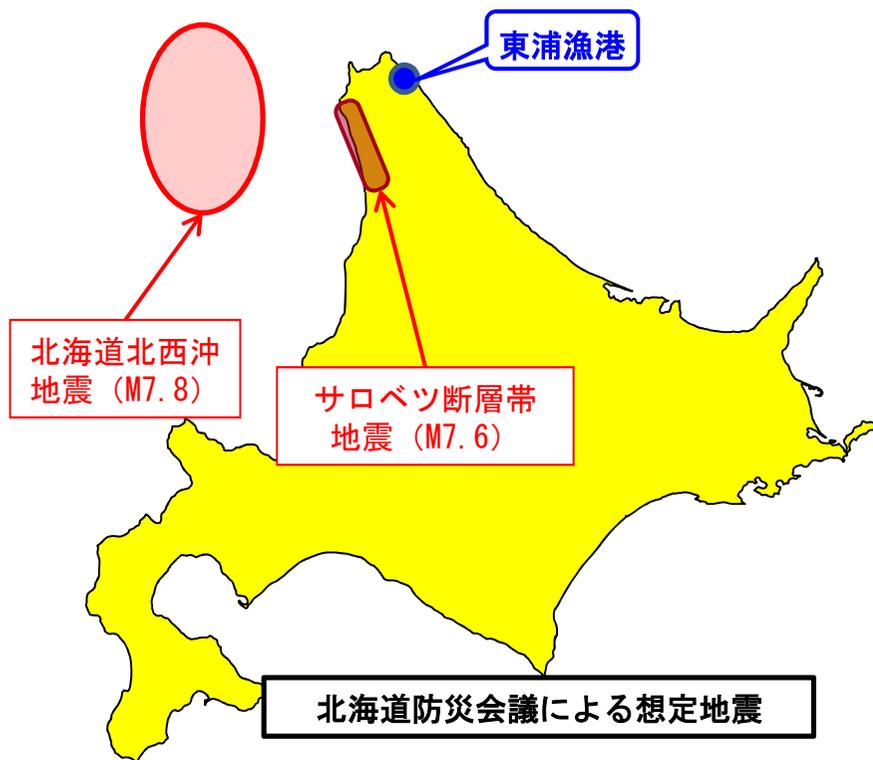
## ②防災対策の強化

### 【課題】

・東浦漁港は生産・流通拠点であるものの、耐震強化岸壁が無く、接続する道路も液状化対策がされて無いため、漁業活動が長期間休止する懸念があり、水産物の安定供給に課題があります。

### 【対応】

・耐震性能強化岸壁への改良や道路の液状化対策を行い、防災機能の強化を図ります。



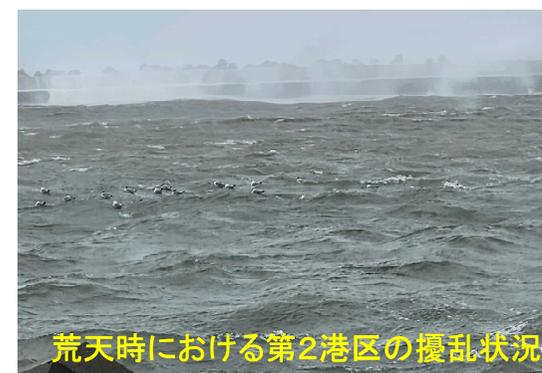
### ③漁業活動の効率性・安全性の向上

#### 【課題】

・東浦漁港では、第2港区の静穏度悪化による漁船の係留ロープの破断や第1港区の一部において水深が浅い箇所があり漁船の航行に支障が生じており、漁業活動の安全性に課題が生じています。また、ホタテ漁船を第1港区に集約する利用再編に伴い、小型漁船の準備・休けい岸壁が不足しており、防波堤への非効率な係留を余儀なくされています。

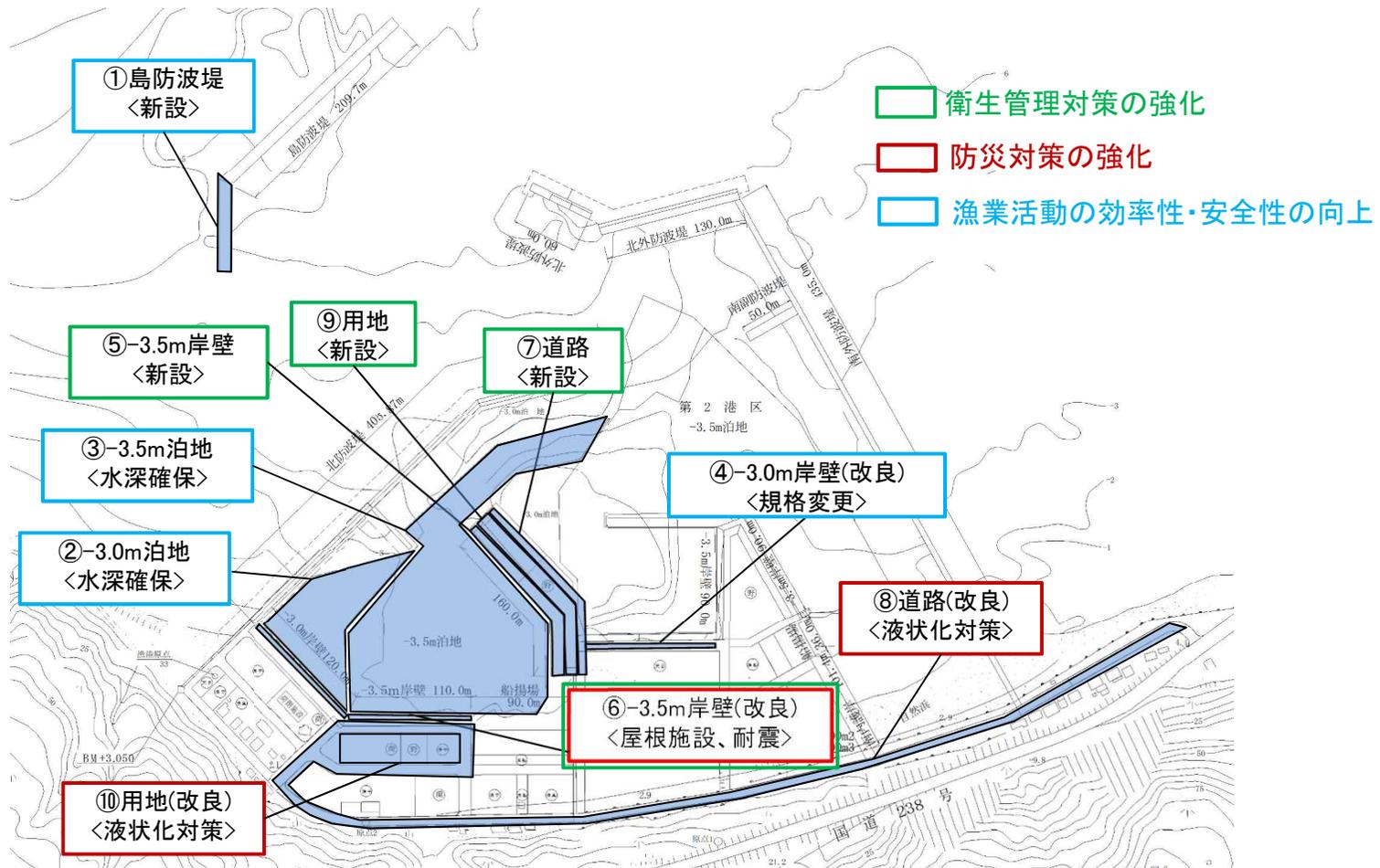
#### 【対応】

・外郭施設の整備による静穏度を確保や泊地の浚渫による水深を確保して漁業活動の安全性の向上を図ります。また、岸壁改良による準備・休けい岸壁の不足を解消し、効率的な漁業活動を確保します。



## (2) 事業計画の概要

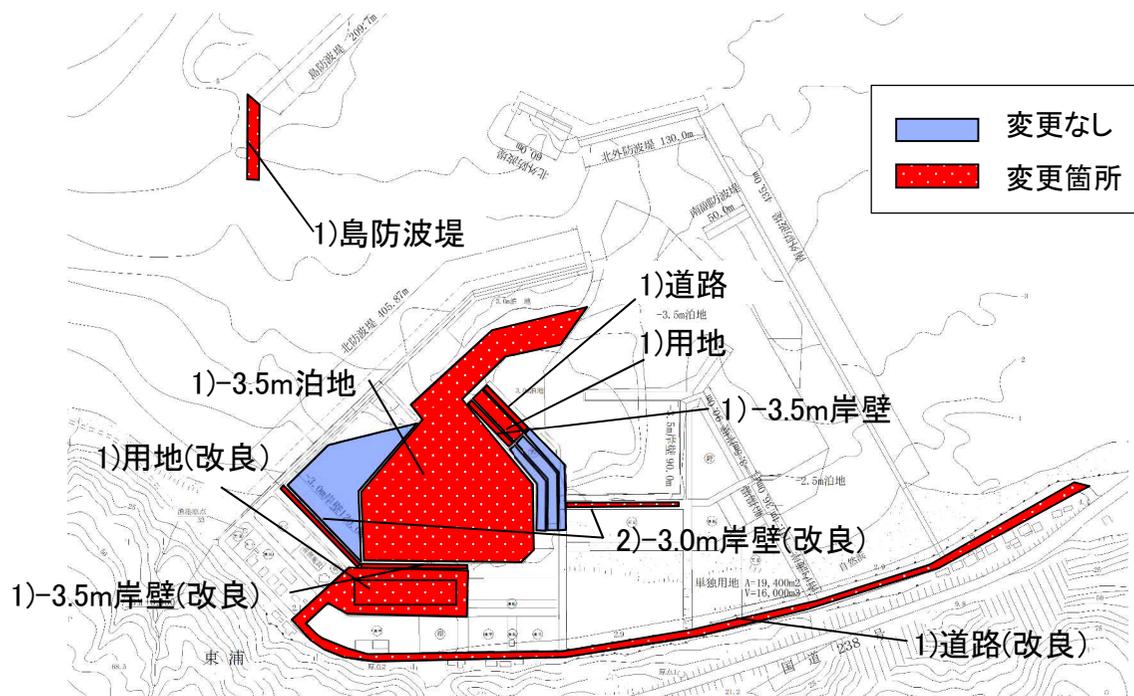
- |                    |                                        |
|--------------------|----------------------------------------|
| 1. 衛生管理対策の強化       | : ⑤-3.5m岸壁、⑥-3.5m岸壁(改良)、⑦道路、⑨用地        |
| 2. 防災対策の強化         | : ⑥-3.5m岸壁(改良)、⑧道路(改良)、⑩用地(改良)         |
| 3. 漁業活動の効率性・安全性の向上 | : ①島防波堤、②-3.0m泊地、③-3.5m泊地、④-3.0m岸壁(改良) |



### (3) 変更の内容

#### 【変更の内容】

- 1) 現場条件等の変更に伴う工法等の見直しによる事業費の変更
- 2) 漁業活動の効率性向上に対応した排水対策
- 3) 事業期間延伸



#### 【今回の変更内容】

	前回評価 (H26事前評価)	今回評価 (R6期中評価)	変更内容
計画事業費の変更	36.0億円	62.5億円	26.5億円増
計画期間の変更	平成27年度～平成36年度	平成27年度～令和11年度	5年延伸

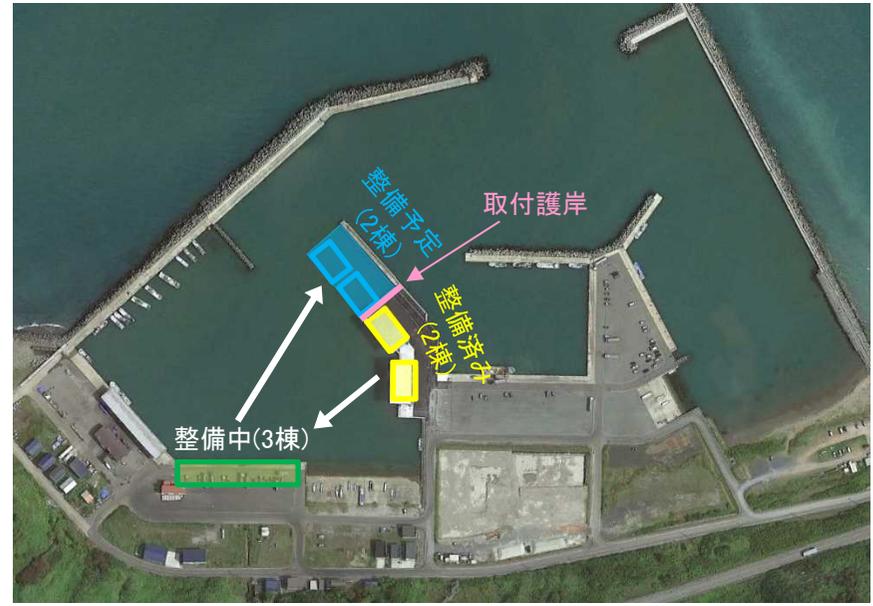
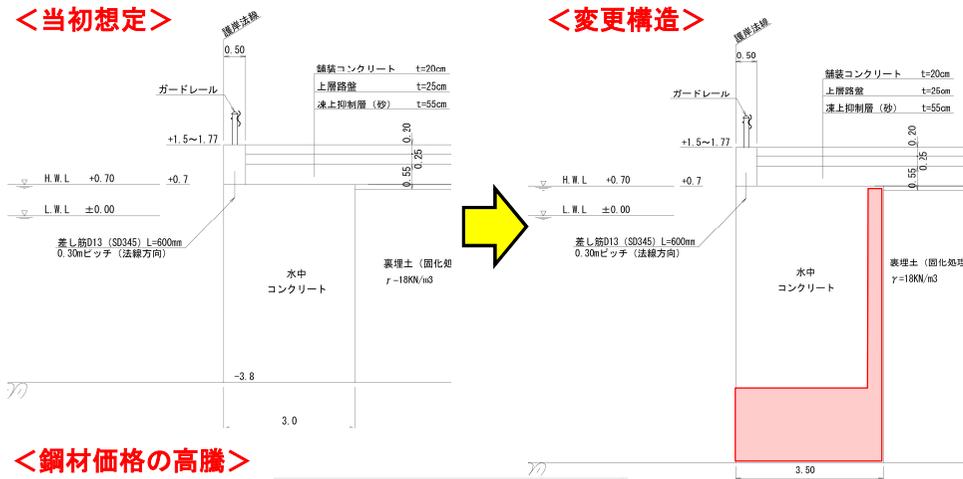
# 1) 現場条件等の変更に伴う工法等の見直しによる事業費の変更

## ■ 主な事業費の見直し

◎ -3.5m岸壁: 12.6億円 ⇒ 27.3億円 (14.7億円増額)

-3.5m岸壁の整備において、現地掘削を行った結果、岩盤面が想定より深い位置に存在し、本体工の水中コンクリートの高さおよび幅を拡幅する必要が生じたことに加えて、屋根施設の鋼材価格が高騰したことから事業費が増加しました。

また、屋根施設4棟を連続して施工する想定でしたが、不足するホタテガイ漁船の係留施設及び屋根付き岸壁の早期確保や施工時における漁船利用について漁業関係者と協議した結果、2棟整備後に対岸の3棟を整備してから残りの2棟を整備することとなったため、取付護岸を整備する必要が生じ、事業費が増加しました。



### ＜鋼材価格の高騰＞



水中コンクリートの打設量の増加

## 2) 漁業活動の効率性向上に対応した排水対策

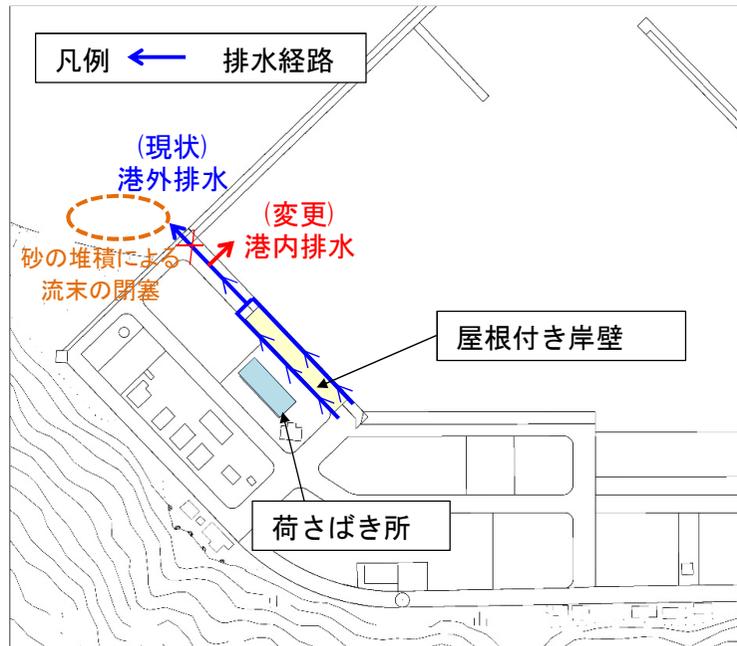
事業費：-3.0m岸壁(改良) 0.07億円(新規追加)

### ■情勢の変化

第1港区-3.0m岸壁のエプロン排水については、港外への排水としておりましたが、近年、流末部分に砂が堆積する傾向にあります。大雨時など排水量が増加する時期は港外の流末部が閉塞し、排水が岸壁上でオーバーフローする事案が生じており、当該岸壁を使用する漁船の操業停止やエプロンの清掃など非効率な作業を余儀なくされています。

### ■整備変更方針

第1港区の漁業活動の効率化を図るため、-3.0m岸壁の排水対策として港外排水から港内排水に改良を行います。



大雨時の排水溝からのオーバーフロー状況



降雨後の岸壁エプロンの清掃状況

### 3) 事業期間延伸

-3.5m岸壁の整備にあたり、利用者調整および施工期間の再検討により、事業の完了予定年度を平成36年度(令和6年度)から令和11年度に延伸することとしました。

# 3.本事業により期待される効果

## (1) 定量的な効果

### ①水産物生産コストの削減効果

防波堤の整備により、静穏域が確保され荒天時の見回り作業等にかかる時間の短縮や経費の削減が図られます。



年間便益額＝対象隻数×対象回数×対象作業人数×作業時間短縮分×労務単価

年間0.16億円分の荒天時見回り等に要する作業時間の短縮効果

## ②漁獲機会の増大効果

岸壁の排水対策により、大雨時の排水不良による出漁制限の状況が改善され、漁獲回数の増加が図られます。

整備前



排水不良によるエプロンへの泥水滞留状況

整備後(想定)



排水対策による排水改善状況

操業日数の増加

整備前  
出漁不可  
日数：1.2日/年  
↓  
整備後  
出漁不可  
日数：0日/年

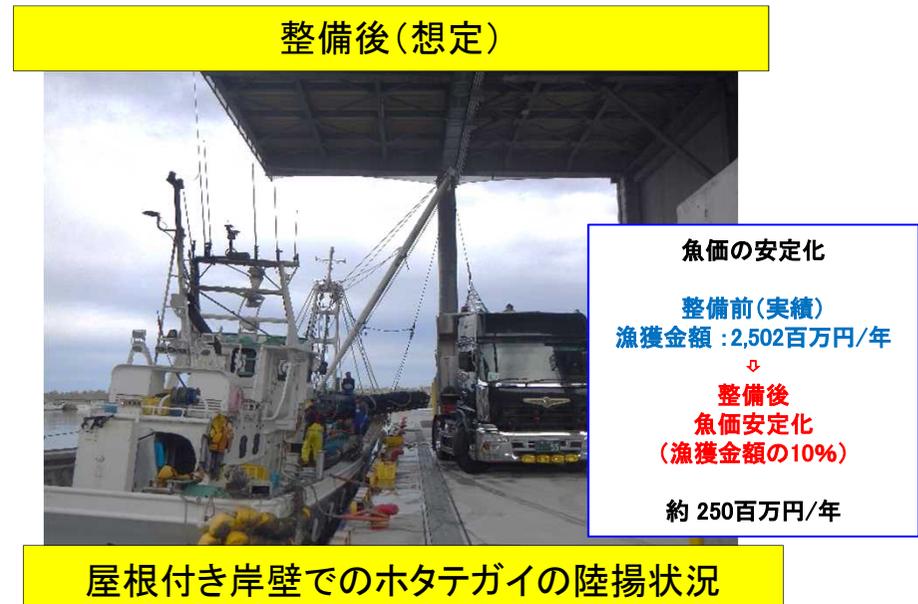
1.2日の操業日数増加

年間便益額＝出漁回数増加の漁獲金額×対象隻数×漁業所得率

年間0.18億円分の操業日数増加による漁獲金額増加

### ③漁獲物付加価値化の効果

屋根付き岸壁の整備により、野天における鳥害・雨天・直射日光等による鮮度低下が改善され、衛生管理による品質向上により、魚価の安定化が図られます。



$$\text{年間便益額} = \text{対象魚種の陸揚金額} \times \text{魚価安定化率}(10\%)$$



年間2.5億円分の衛生管理対策による魚価の安定化効果

#### ④漁業就業者の労働環境改善効果

屋根付き岸壁の整備により、雨・強風・風雪などの影響が低減され、ホタテガイの陸揚げ・荷さばき作業における漁業就業者の快適性・安全性が向上し、屋外作業の労働環境が改善されます。

整備前



野天(微雨時)でのホタテガイの陸揚状況

整備後(想定)



船員の労働環境の改善  
整備前 Bランク  
報酬日額 28,083 円/日  
↓  
整備後 Cランク  
報酬日額 24,171 円/日  
3,912 円/日報酬額削減

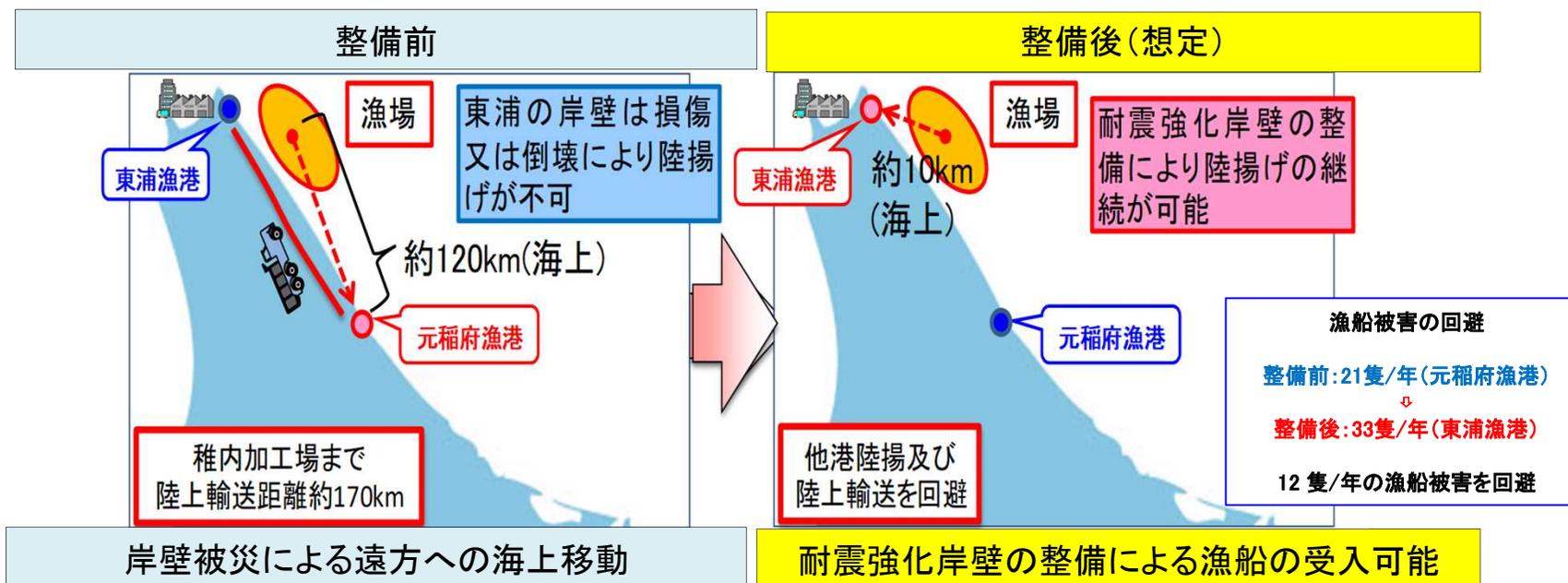
屋根付き岸壁整備による労働環境の改善

年間便益額 = 対象日数 × 作業人数 × 作業時間 × 労務軽減率 × 労務単価

年間0.02億円分の作業軽減による労働環境改善

### ⑤生命・財産保全・防衛効果

耐震強化岸壁の整備により、大規模地震発生後における漁業活動の早期再開が確保され、東浦漁港での陸揚げが可能となります。



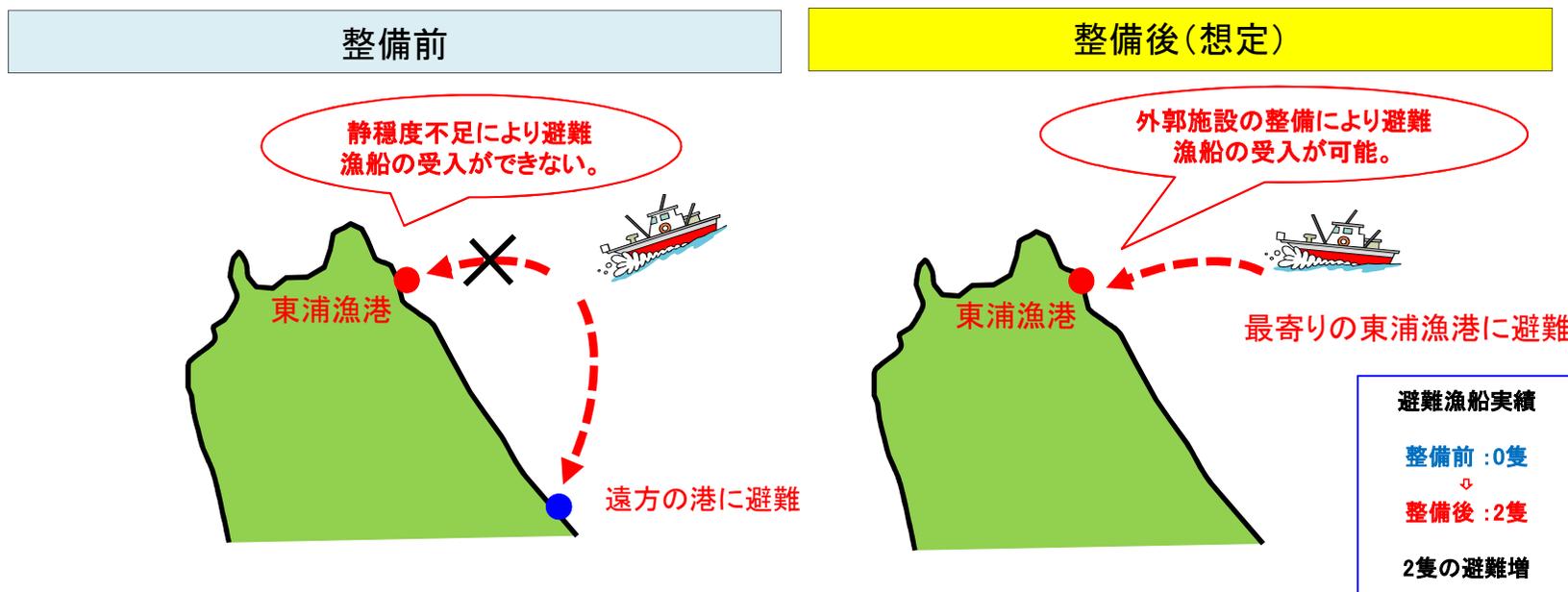
$$\text{年間便益額} = (\text{休業損失の回避} + \text{災害復旧費の回避}) \times \text{災害発生率}$$

$$\text{年間0.41億円} \times (74/75)^{t-1} \text{千円/年 分の漁業休業損失の回避効果}$$

$t-1$ 年まで災害が発生しない確率

## ⑥避難・救助・災害対策効果

防波堤の整備により、安全な避難水域が確保され、外来漁船が本漁港へ避難できることから、海難事故を回避することが可能となります。



年間便益額 = 漁船隻数 × 避難機会 × 損失額

年間0.07億円分の漁船の損傷・人的被害の回避効果

## (2) 定性的な効果

### ①安全・安心な東浦産ホタテガイの消費者への提供

ホタテガイ漁業専用の衛生管理に対応した屋根付き岸壁が整備され、国内外の消費者へ安全・安心な東浦産ホタテガイの提供が可能となります。また、宗谷漁業協同組合では2011年(平成23年)に『宗谷の海味(うみ)』として商標登録したブランド名で、自社HPによりホタテガイ、タコ製品等の販売を行っており、利用者から好評を博しています。



屋根付き岸壁(ホタテガイ)



宗谷の海味 ホタテガイ貝柱



宗谷の海味 タコ・ホタテガイセット

### ②地域漁業の持続的な発展

近年の低気圧の大型化など気象・海象環境が変化する中で、異常時の静穏度対策や休けい岸壁の整備などの水産基盤整備が促進されることで、東浦地区での就労環境の向上が図られ、地域漁業の持続的な発展への貢献が見込まれます。

### (3) 費用対効果の結果

①条件 基準年度:令和6年度 供用期間:50年

②費用便益比の算定

総費用(単純合計)

整備施設	数量	事業費 (億円)
【東浦】		
島防波堤	80.0 m	1.5
-3.0m泊地	6,700m <sup>2</sup>	1.0
-3.5m泊地	31,000m <sup>2</sup>	6.7
-3.0m岸壁(改良)	120.0 m	0.5
-3.5m岸壁	160.0 m	27.3
-3.5m岸壁(改良)	110.0 m	19.7
道路	177.0 m	4.1
道路(改良)	1,123.0 m	0.2
用地	1,900m <sup>2</sup>	1.3
用地(改良)	3,500m <sup>2</sup>	0.2
合計		62.5

総便益(単純合計)

便益内容	便益額 (億円)
水産物生産性コストの削減効果	22.2
漁獲機会の増大効果	9.1
漁獲物付加価値化の効果	132.2
漁業就業者の労働環境改善効果	1.2
生命・財産保全・防衛効果	20.3
避難・救助・災害対策効果	3.3
合計	188.4

総費用(現在価値化後)

総費用(C)	67.90億円
--------	---------

総便益(現在価値化後)

総便益(B)	75.58億円
--------	---------

算定結果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{75.58}{67.90} = 1.11$
----------------	----------------------------------------------------------------------------------

《参考》感度分析結果

	需要		建設費		建設期間	
	+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
費用便益比 (B/C)	1.22	1.01	1.09	1.14	1.08	1.15

《参考》比較結果(社会的割引率)

	社会的割引率1%	社会的割引率2%
費用便益比 (B/C)	2.15	1.70

《参考》残事業の費用対効果

費用便益比 (CBR)	$B/C = \frac{\text{便益の現在価値(B)}}{\text{費用の現在価値(C)}} = \frac{68.26}{17.05} = 4.00$
----------------	----------------------------------------------------------------------------------

### ③前回評価との比較

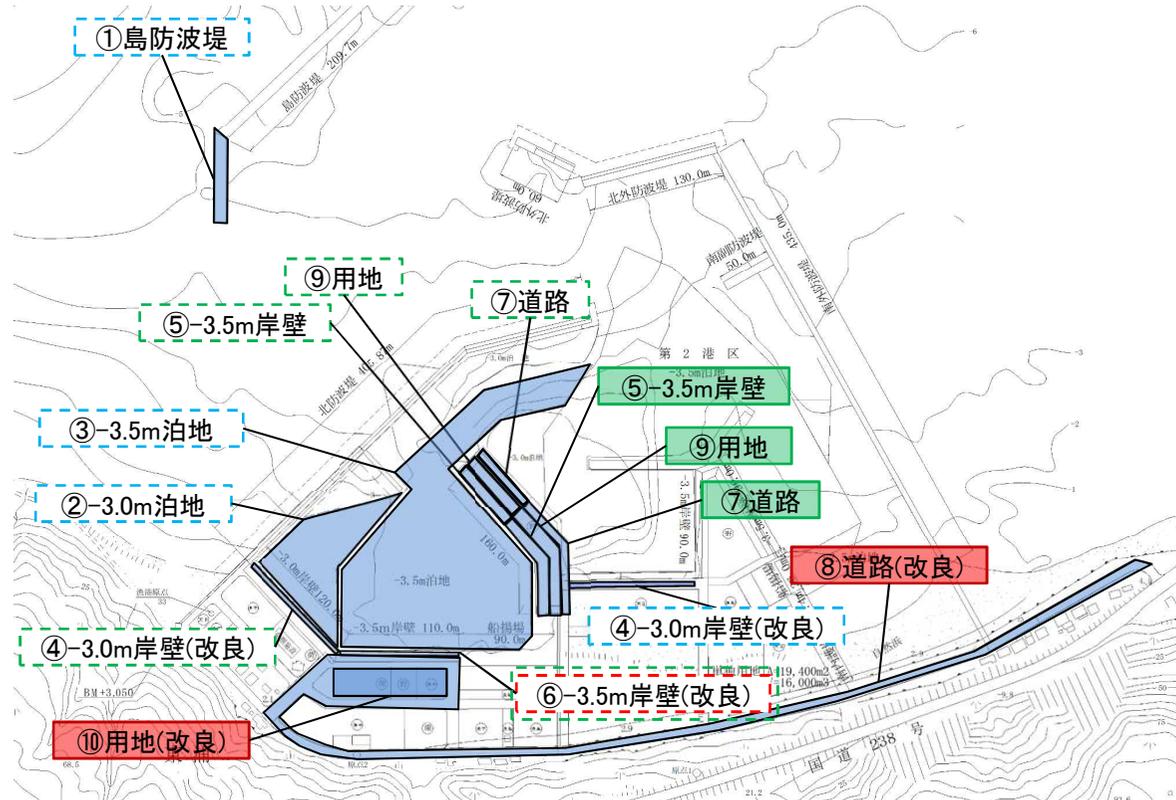
		前回評価 (H26事前評価)	今回評価 (R6期中評価)	備考
事業費 (億円)		36.0	62.5	・防波堤及び岸壁の改良構造の見直しによる増額
整備予定期間		平成27年度～ 令和6年度	平成27年度～ 令和11年度	・-3.0m及び-3.5m岸壁整備に伴う延伸
年間便益の 根拠となる 需要予測	水産物生産コスト削減の 対象隻数	30隻 (令和6年度目標)	33隻 (令和11年度目標)	・対象漁船隻数の増
	漁獲機会の増大効果	—	180日/年 (令和11年度目標)	・排水対策追加による増
	漁獲物付加価値化の 対象陸揚金額	10.9億円/年 (令和6年度目標)	27.5億円/年 (令和11年度目標)	・対象魚種の陸揚金額の増
	漁業就業者の労働環境 改善の対象隻数	13隻 (令和6年度目標)	27隻 (令和11年度目標)	・対象漁船隻数の増
	生命・財産保全・防衛 効果	31隻 (令和6年度目標)	33隻 (令和11年度目標)	・対象漁船隻数の増
	避難・救助・災害対策の 対象隻数	12隻 (令和6年度目標)	2隻 (令和11年度目標)	・対象漁船隻数の減
総便益(単純合計) (億円)		121.0	188.4	
費用便益比 (B/C)		B/C=1.31	B/C=1.11	

### ④事業コスト縮減等の可能性

今後の整備では、路盤材や固化処理土等には工事発生材の有効活用に加え、新技術の導入による事業コストの縮減に努めます。

# 4.事業の進捗状況

## (1) 令和6年度までの整備状況



## (2) 事業進捗の見込み

本事業に係る、関係機関との調整は整っており、事業が順調に進んだ場合、令和11年度の完了を予定しています。

## 5.地方公共団体等の意見

### (1) 稚内市

東浦漁港は、オホーツク海北部海域のホタテガイ桁曳き網漁業の生産・流通の拠点として、また宗谷岬東部海域で操業・航行する漁船の避難拠点として重要な役割を担っており、関連する水産加工業とともに水産業が主要産業であることを踏まえ、重要な社会基盤である東浦漁港の整備推進を強く求めています。

### (2) 宗谷漁業協同組合

東浦漁港では、オホーツク海北部海域のホタテガイ桁曳き網漁業の生産・流通の拠点、ホタテガイ地撒養殖漁場に対する作業前進基地としての役割を担っていることから、水産物の衛生管理体制の強化や漁業者の就労環境改善のための施設整備を強く求めています。

また、東浦漁港は、宗谷岬東側に位置する第4種漁港であり、東浦や猿払の沖合で操業する漁船や宗谷岬沖を航行する漁船の避難基地として重要な役割を担っていることから、港内静穏を確保し、荒天時にも漁船が安全に避難利用可能となる施設整備を強く求めています。

## 6.対応方針(案)

東浦漁港はホタテ桁曳き網漁業等の生産・流通の拠点であるとともに、宗谷海峡で操業・航行する漁船の避難拠点としての重要な役割を担っています。

このため、衛生管理の強化・就労環境改善のための屋根付き岸壁、避難機能の強化や港内静穏度向上のための外郭施設整備、準備・休けい岸壁の確保に向けた係留施設整備によって、周辺海域で操業する漁船の安全かつ効率的な漁業活動に寄与する事業であると考えられます。

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。

引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費および事業期間の管理に努めていきます。